

# 政策提言シート

氏名

井戸川克隆

印

## 現状認識と将来像

### 福島県の現状

県民不在の中で絶対王制のように決めている。  
情報を隠している。  
県民の人権を踏みにじっている。  
健康被害が拡大している。  
本当の不安をウソで黙らせている。  
県民が被害を受けていても声が出せないようにしている。  
実害なのに風評被害の解釈を間違った使い方をしている。  
海、空、県土が汚染しているのに正しい広報をしていない。  
県民を目隠ししている。

### 現県政に対する現状認識(現職の場合、任期中の成果と課題を含む)

県民に出さなければならなかった情報を隠したことは県民に対する裏切り行為に当たる。スピーディ情報、ヨウ素剤服用指示、避難範囲、オフサイトセンター会議に被害者の町を参加させなかった事、被害者切り捨ての政策など、また県民の県外避難を妨害したことなど県民の為に膨大な被害を与えた行為は許せない。

### 目指すべき将来像

県民参加の事故検証、県民参加の避難基準の作成、県民による県土 100 年計画の作成、健康手帳の交付で晩発性障害の補償体制の構築、カルテの永久保存、避難生活支援などを県民参加の下で希望が見える将来像を創る。

## 重要政策(優先順位の高い順に3つ)

### 第1優先

県民の声を聞き都合に合わせた県政をする。  
行政の都合よりも県民の都合に合わせる  
長い避難生活者の声を聞き、直ぐに対応する  
無理な帰還をさせない  
行政が避難者に無理な押し付けをさせない  
ウクライナの良い所に学び 20mSv/y は認めない  
世界最大の事故なので世界最大の救助・救済を行う  
国連人権理事会特別報告の指摘を精査して指摘事項の実施をする

### 第2優先

独立性の高い検査、医療体制を確立する。  
県民から信頼される為に県民によるチェック機関を作る  
高い信頼の下に生活の継続や移転、疎開、保養の支援を行う  
企業者に将来負担を負わせない——晩発生障害の加害者にならない  
生業と生活者に正しい被曝防止の基準を示し本当の安心をしてもらう

### 第3優先

未来が見えるようにする

損害賠償の考え方を变える——全県民が直接、間接的に被害者の位置付け、被害を我慢させないように県民による検討委員会を作る

賠償を被害者に見える形にして早く解決する

被害者からの脱却—大きなマイナスからゼロに向かう人生か？それともゼロからプラスに向かうかのメニューを作り選択を促す

TPP が攻めてくる—世界規模の大流動に勝つには品質で攻めることが必要

福島版マイスター制度を早く作り、世界中から求められる人材の育成が喫緊の仕事

中身のある頑張りで泣き言から高笑いに転じる、世界に羽ばたく福島を作る。

### テーマ①:「産業政策」についての具体策(優先順位の高い順に3つ)

第1優先	内容: 知的産業(非被ばく産業、特許申請支援体制等) 期限: 今すぐ 予算: 100億円 財源: 復興交付金 手段: 製造システムを持たない知的産業が高収益で魅力的 数値目標: 県民総生産の10パーセント
第2優先	内容: 健康産業(被曝管理、子供と見守り隊、高齢者見守り隊、単身者見守り隊、結婚支援体制、ケアハウス助成などを支援する) 期限: 今すぐ 予算: 未定 財源: 国プラス県費 手段: 事故により子供と高齢者は分断されてしまった、県民のサポーターを募り需給のバランスを調整する 数値目標: 県民の需要に全部対応する
第3優先	内容: 安全な食料の確保(県民が安全であるように) 期限: 今すぐ 予算: 500億円 財源: 復興交付金 手段: 人工環境の農園を作り、安全が見えるようにする 数値目標: 県民の50パーセント

### テーマ②:「少子高齢化問題の取り組み」についての具体策(優先順位の高い順に3つ)

第1優先	内容: 地方分権の更なる推進 TPP を見据えた判断と国民が行政を支える国民力が少なくなっている今、成長を目指すのか？維持を目指すのかの岐路に日本は立っている事を考慮して行かねばならない。 分権の必須条件は西欧のように行政の簡素化を選択する必要がある、選挙に金を掛けさせない、首長の給料を安くする、もちろん、職員も議員も安くしなければならない。 地方交付税の算定基礎である人口比率ももう直ぐ見なおさざるを得ないと思う。小さな役所作りは避けて通れない大きな問題である、もう行政の負担には耐えられないと今すぐ国民的な声が必要だ、このため以下については応えようがない。 期限: 予算: 手段: 数値目標: 財源:
第2優先	内容: 結婚、育児に公費を入れる 期限: 今すぐ、終わりはない 予算: 積み上げないと分からない 手段: 実施するのみ 数値目標: 100パーセント 財源: 国、県、市町村

第3優先	内容: 若者が全て生活出来るように非正規雇用の廃止
	期限: 今すぐ 予算: 積み上げないと分からない 手段:
	数値目標: 対象人口の 50 パーセント 財源: 国、県、市町村

上記の2つのテーマ以外の重要課題(優先順位の高い順に3つ)

第1優先	内容: 被害者の支援打ち切り阻止と賠償事務の簡素化及び迅速な支払い(県民が (事故で我慢させられるのは私が我慢できない)
	期限: 今すぐ 予算: 必要なだけ 手段: 手段を選ばない
	数値目標: 全 財源: 加害者負担
第2優先	内容: 県民から信頼される県庁作り(ウソは言わせない)
	期限: 2ヶ月以内 予算: 不要 手段: 例外は認めない
	数値目標: 100 パーセント 財源:
第3優先	内容: 世界最大の救済を求める(被害の全容がまだ見えてない)
	期限: 県土から放射性物質が無くなるまで 予算: 全てかかる費用(原発事故の無限責任) 手段: 費用請求
	数値目標: 100 パーセント 財源: 事故原因者全額負担